

令和6年度全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」
オリエンテーション合宿 in 淡路 実施報告

- 1 趣 旨 探究の手法を体験することを通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを身に付けるとともに、多様な人々と協働しながら地域・社会にある課題解決に向けた取組を行うことで、郷土や自然に愛着を持ち、新たな価値を創造する高校生を育成する。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立淡路青少年交流の家
- 3 日 程 令和7年2月4日（火）～5日（水）
- 4 場 所 兵庫県立洲本実業高等学校（兵庫県洲本市宇山2丁目8-65）

<フィールドワーク>

FC.AWJ	（洲本市五色町鳥飼浦 2613）
コモード56商店街	（洲本市本町）
洲本レトロこみち	（洲本市本町）
平岡農園	（洲本市宇山 451）
ホテルニューアワジ	（洲本市小路谷 20 番地）

- 5 対 象 兵庫県立洲本実業高等学校 地域商業科1年生 38名
- 6 講 師 井上 奈穂 先生
（鳴門教育大学大学院 学校教育研究科
高度学校教育実践専攻 社会科教育コース 准教授 ）

7 プログラム内容

2月4日（火）

【ガイダンス】9：00～9：50

「探究」とは何かと題し、地域探究プログラムについての説明を行った。フリスビーを用いて説明を行い、実際に「探究」を体験することで参加者は理解することができていた。本事業において、「探究」とは物事を自分事として捉え課題解決に向けて取り組むことであることを確認した。すべての活動に共通して、「自ら発信する」という約束事を決め、受け身にならないように促して活動を始めた。



【フィールドワークに向けて】各班のテーマや質問事項を共有する 10：00～10：50

冬休み等を利用して事前学習により得た情報を各班で共有し、午後からのフィールドワークに向けてのテーマや、質問事項を考えた。各フィールドワーク先の課題や魅力について話し合い、ワークシートに記入し、その後全体共有することができた。フィールドワークに向けて積極的な話し合いが進められていた。



【講話】「地域づくりの理解と課題設定の基礎」 11:00～11:50

鳴門教育大学 井上奈穂先生にオンラインでご講義していただいた。「地域探究」とは何かといった内容やフィールドワークに向けての姿勢を視覚的に分かりやすい資料を使って、より詳しく説明していただいた。参加者から分かりやすいといった意見が多かった。また、「洲本ってどんなところ？」という発問があり、地元について考える良い機会になり、地元の知らなかったことを知ることができたという意見があった。



【フィールドワーク】「課題解決の基礎」 13:00～16:30

グループ毎に分かれて、各フィールドワーク先（FC.AWJ、コモード56商店街、洲本レトロこみち、平岡農園、ホテルニューアワジ）を訪問した。どのフィールドワーク先も洲本市にあり、身近なものであるにも関わらず、初めて訪れたという生徒が多かった。生徒は各フィールドワーク先で、そこで働く人との対話を通して、インターネットの情報からは学べない地域の魅力や課題を知ることができた。



2月5日（水）

【講義・演習①】「地域づくりと探究」 8:40～10:30

各班でのグループワークを中心に行った。フィールドワーク先の魅力や課題を「ブレインストーミング」「KJ法」によって整理してまとめた。その中から、「なんとかしたい内容（＝テーマ）」を決定し、発表資料の作成を行った。発表資料は、「テーマ」「現状」「背景」「仮説」「理想」「理想を実現するための方法」「そのために具体的にできること」「感想」というストーリーを意識して作成した。「内容をまとめるのが難しかった」という声が多かったが、「普段あまり話さないが、グループで協力することができた」という声も多かった。



【発表①】 10:40～11:45

「KP法」によるグループ発表を行った。発表後には質疑応答の時間を設け、次に発表を行うグループは、必ず1つ質問をするというルールのもと進めた。「緊張で声が小さく、うまく発表できなかった」や「他の班の意見を聞くことができて良かった」という声が多かった。



【講義・演習②】「地域課題の探究」12:45～14:00

発表を終えて感じたことの共有をグループで行った。そして、グループの新たな課題（＝テーマ）を決定し、再び発表資料の作成を行った。発表資料は、「発表①のテーマ」「新たなテーマ」「なぜそのテーマを取り上げたか」「今後何をするか」というストーリーを意識して作成した。二度目の発表資料の作成だったため、「一度目よりスムーズに話し合いができた」という意見が多かった。また、「深く考えることができ、課題を発見することができた」という意見もあり、地域の魅力や課題を自分事として捉え、さらに追究しようとする姿勢が見られた。



【発表②】14:15～14:50

【発表①】と同様の形態で発表を行った。【発表①】よりも、「うまくまとめて発表することができた」という感想が多く見られた。また、質疑応答では、質問が増えており、発表を聞く力がついているように感じられた。応答についても、テーマについて深く考えたことや慣れなどが良い方向に影響して、比較的スムーズに、且つ自信を持って行えており、生徒の表現力が向上しているように感じられた。



9 参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・もっと課題について（淡路島について）詳しく知りたい。
- ・昔のような活気が戻るようにしたい。
- ・SNSで魅力を発信したい。
- ・フィールドワーク先にもう一度行きたい
- ・今回得たコミュニケーション力を活かしていきたい。
- ・自分たちの課題に少しでも取り組んでみたい。

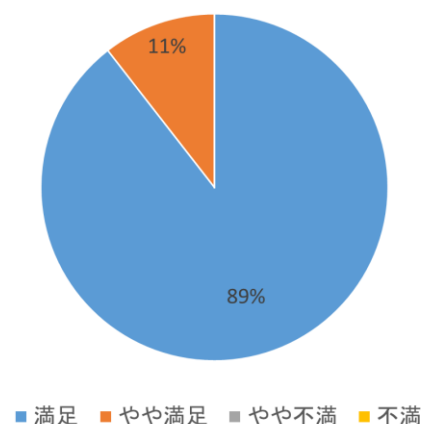
10 成果と課題

右図に示すように、事業全体の肯定的評価は100%（満足89%、やや満足11%）であり、評価を得ることができた。項目別の満足度では、フィールドワークが「満足92%」と高く、地域の「知らなかったことを知れた」や「また行ってみたい」といった感想が多数見られ、地域の課題を自分事として捉えることができるようになったと考えられる。

学校でのグループ活動では各グループが2回の発表を行ったが、「1回目よりも2回目の方が、うまく考えをまとめ、発表することができた」という感想が多数見られ、生徒の思考力や表現力の向上に効果があったことが伺えた。

今後の課題は、当顕彰制度の参加者の間口を広げるため、洲本実業高等学校と連携する現在の学校連携型と、より広域的に参加者を募る個別参加型を組み合わせた事業形態での実施が可能か検討することであると考えている。

事業を総合的に評価してください



フィールドワークはどうでしたか

